

【将来像】

【基本理念】

【基本目標】

【施策の方向】

【達成された姿】

人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを営める社会

障がいを身近なものとして理解できるまちづくり

障がい者が自らの意思で暮らし方を決定できるまちづくり

誰もがともに生きる地域の一人であることを実感できるまちづくり

基本目標 1
障がいによって分け隔てられることのないまち



基本目標 2
自分らしく生きることができるまち



基本目標 3
地域で支え合う共生のまち



1 障がい者理解の促進

2 権利擁護の推進

3 相談支援体制の充実

4 一貫した療育支援体制の確立

5 就労支援の充実

6 居住支援の充実

7 社会参加の促進

8 日常生活を支えるサービスの充実

9 健康・医療の充実

10 災害時支援体制の強化

11 地域をつなぐネットワークの構築

12 地域における人材等の養成

障がい・障がい者への理解が深まり、差別が解消され、誰もが尊重されている。

全ての障がい者の人権が尊重され、自分らしい生活を送ることができる。

困ったときには、身近な場所で気軽に相談することができる体制が整っている。

地域で切れ目のない一貫した療育支援が受けられている。

一人一人に合った就労支援により、多様な働き方ができている。

住居を確保し、安心して地域で暮らし続けることができる。

地域や社会の様々な活動に参加しやすい環境が整っている。

住み慣れた地域で、安心して生活できるサービスが整っている。

障がいの原因となる疾病や重度化の予防が図られている。

災害時に必要な避難等の支援が受けられている。

支援が必要な人を早期に発見し、適切な支援が図られるネットワークがある。

地域ぐるみの様々な生活支援が活発に行われ、身近な支援者が増えている。

地域包括ケア社会の実現

取り組むべきSDGsの目標

